

志・感謝・誇りをもち、キラリ輝く

大川っ子の育成を目指して

平成26年度「全国学力・学習状況調査」から

大川市教育委員会

大川市では、教育振興プログラムを策定し、確かな学力をはぐくみ、生涯にわたって自ら学び、自らを高め、未来を切り開いていく「生きる力」を育成していくことをめざし、様々な教育施策を推進しています。その一つとして、本年度も全国学力・学習状況調査の結果を分析し、必要な施策の検討を行っています。

学習の方向性

調査結果からの課題

国語科の学習の充実

平成26年度全国学力・学習状況調査は、昨年同様に全員参加方式で実施されました。

【調査対象】
市内全8小学校4中学校
小学校6年生(272名)
中学校3年生(300名)

【調査内容】
○教科に関する調査
国語・算数(中学校は数学)
AⅡ主として「知識・技能」に関する問題
BⅡ主として活用に必要な「思考力・判断力・表現力」に関する問題
○学習意欲・環境、生活習慣などに関する質問紙調査

○日々の授業の中で確かな学力を身に付けるためには、文章をしっかりと読み深める活動、自分の考えを書いたり、それをもとに話し合ったりする活動、学習のまとめや振り返りを書く活動などを子ども一人ひとりに保障することが必要です。

○立場や根拠を明確にした話し合いについては、まず根拠の内容を正しく理解すること、発言をする際には、根拠を意識し一定の立場に立つこと、根拠を明確にして発言することなどが大切です。

と、根拠を明確にして発言することなどが大切です。

○国語辞典や漢和辞典を使って調べる習慣を身に付けるために、調べたいときにいつでも使えるような環境を整えたり、生活の中で、これらの辞典を用いる経験の積み重ねが重要です。

算数・数学の学習の充実

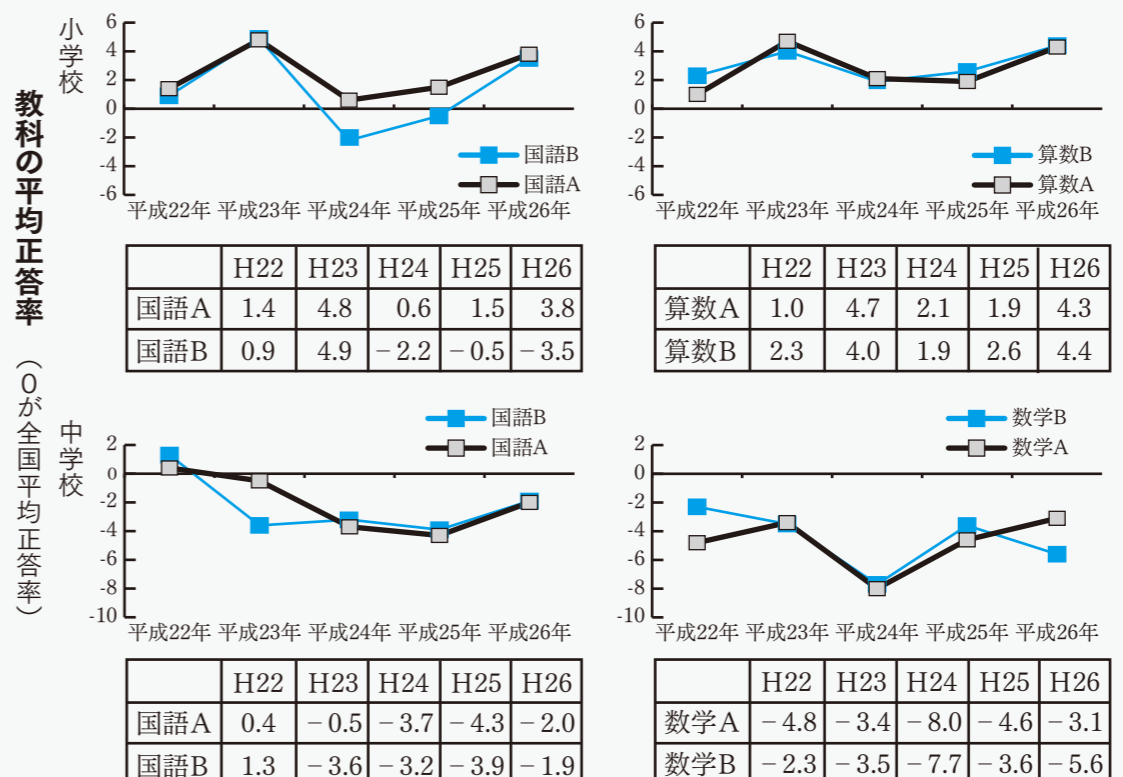
○算数・数学的なものの見方や考え方を伸ばすには、自力解決するだけで終わるのではなく、他者のいろいろな考え方や解決方法を解釈することで、表現のよさに気付いたり、見方を変えて新しい解決方法を考えたりするなどの学習活動が重要です。そのために、子どもが書いた解答を、別の子どもが代わって説明する場をつくることも一方法です。

○算数・数学で既に学んだ言葉や記号、定理や法則などは、それらを用いる能力を伸ばすために、書く活動や話し合いなどの表現する機会毎に、子どもがそれらを適切に用いるように繰り返し確認していく必要があります。

○学習内容については、実感

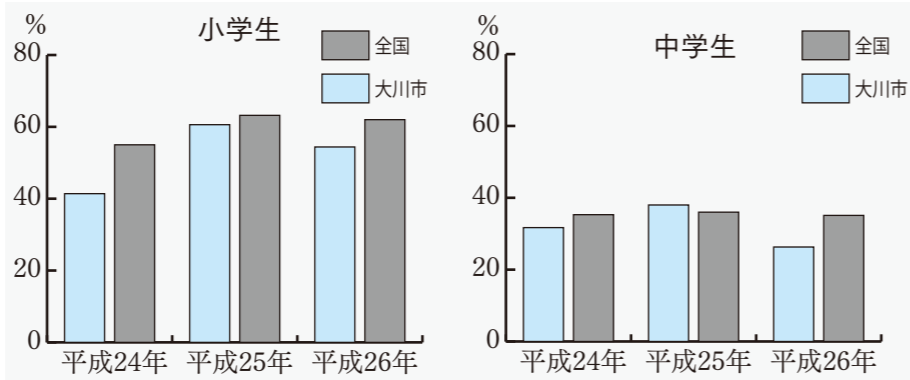
を伴って理解できるように、具
体物・図・数直線グラフなど
を用いて表すなどの算数・数
学的活動を取り入れること、
また、学習内容を深めたり学

習する意義を理解できるように、
他教科などにおいても学
習内容を実際に活用する場
を設定するなどの工夫が求め
られます。

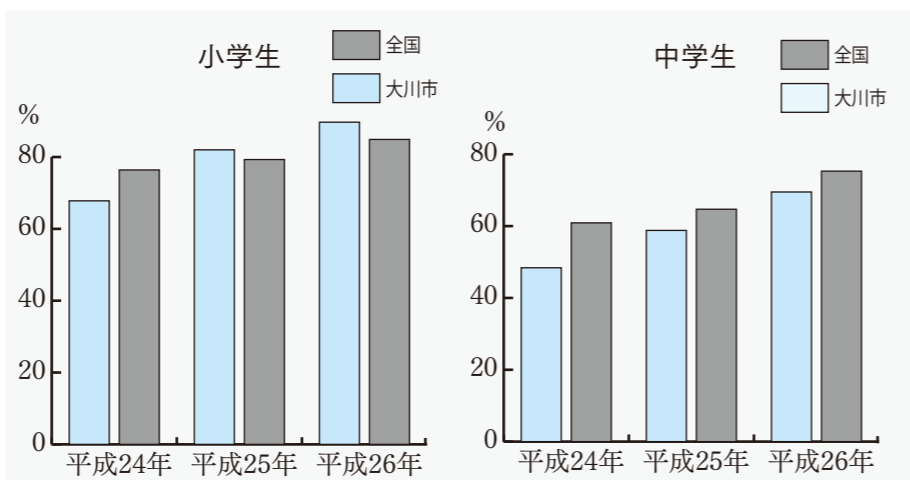


学校の授業以外の普段(月～金曜日)、1日当たりの勉強時間

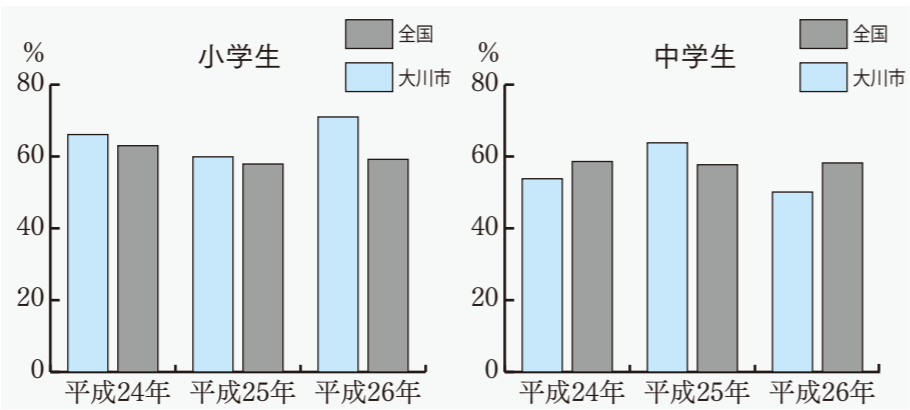
◇「1時間以上(小学生)・2時間以上(中学生)学習する」と答えた割合



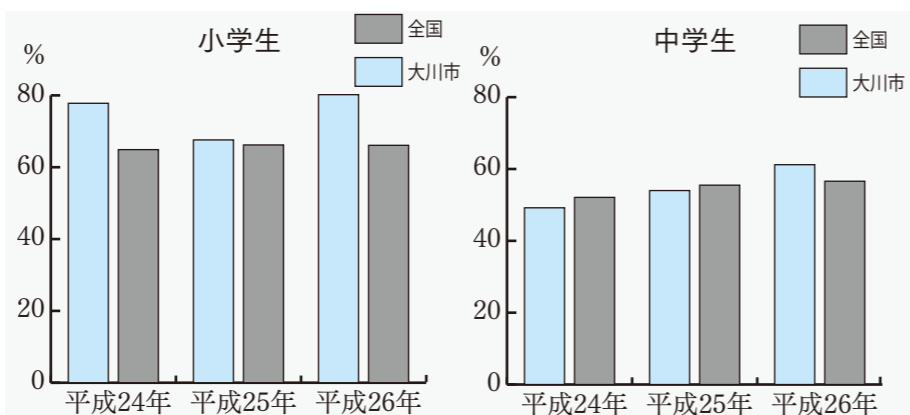
授業の中で話し合い活動を行っている割合



国語の勉強が好きな割合



算数、数学の勉強が好きな割合



(1)学習意欲について

学力が向上するためには、学校での学習と共に、家庭学習や基本的な生活習慣がたいへん重要です。学校での学習では、授業中のめあてやまとめをしっかりと確認したり、自分の考えを書いて発表したりノートの書き方を工夫したりしながら、教科に応じた学習

の仕方を身に付けることが大切です。

また、授業中は積極的に話し合い活動に参加する子ども、授業で分からなかったことやできなかったことをそのままにせず、先生や友達に質問したりする子ども、できるまであきらめずに繰り返し練習する子どもは学習することが

好きになり、学力も伸び、学習意欲も向上していきます。

(2)家庭学習習慣の確立

家庭学習時間が小・中学校ともに全国に比べて少ないようです。自分で計画立てて勉強している児童生徒の割合は、小学校では増加していますが、中学校では伸び悩んでい

ます。中学校では、部活動などを終えて、帰宅してからの学習時間をしっかりと確保して早めに学習に取り掛かるよう心がけてください。

し合い、宿題や復習、予習など家庭学習の時間をしっかりと確保してください。

○テレビや音楽を見たり聴いたりしながらの「ながら勉強」をしないで、学習に集中できる環境をつくりましょう。

○子どもが決めた通りにできるとき、しっかりとほめましょう。